

一 次の文章を読み後の問いに答えなさい。

ホンネの交流ができなくて淋しい

長く学生たちの相手をしていると、時代の流れを感じるが、友だち関係という点で言えば、深く語り合うということがなくなってきたように感じる。

「さしさわりのない冗談を言って笑ったり、軽い情報交換をしたりするだけで、ホンネをぶつけ合える友だちがいなくて淋しい」という相談を受けることもある。

これまでに見えてきたように、相手に気をつかって合わせるばかりで、自分をあまり出さずに、相手がこちらにAキタイしている反応を演じる。わざと演じているつもりはないのだが、気まづくなりたくないし、変なヤツと思われたくないので、自然に演じてしまう。

実際、学生たちを見ていると、Bイゼンと比べて話さないわけではなく、賑やかにしゃべっているのだが、ほんとうに気になっていることを語り合うという雰囲気ではないことが多いようだ。僕は、そういう場面によく遭遇するため、2友だち集団の会話がバラエティ番組化していると、ある著書の中で指摘したことがあるが、『バラエティ番組化する人々――あなたのキヤラは「自分らしい」のか?』廣済堂新書)、ウケ狙いの発言がやたらと目立つ。

そんなのは虚しいというところで、ほんとうに気になることを話したら、空気を乱したらしく、みんなが退いたから、もうホンネは言えないと思つたという学生が相談にきたこともある。

A 思い出すのは、精神科医の太平健が指摘したやさしさの変容だ。太平は、若者の間でやさしさを変容していることを指摘し、それを3「治療としてのやさしさ」から「予防としてのやさしさ」への変化というように特徴づけている。

お互いのココロの傷を舐めあうやさしさよりも、お互いを傷つけないやさしさの方が、滑らかな人間関係を維持するにはよいということになったのだという。

かつては、相手の気持ちを察し、X「すること、お互いの関係を滑らかなものにするのがやさしさだった。ところが今では、相手の気持ちに立ち入らないのがやさしさ」とみなされる。相手の気持ちを詮索しないことが、滑らかな関係をC保つのに欠かせなくなっている。そのように説明する太平は、旧来のやさしさが相手の気持ちを察するのに対して、新しいやさしさは相手の気持ちに立ち入らないところに大きな違いがあるという。

このようにやさしさを変容しているとすれば、ホンネの交流がしにくいのも当然と言える。

「治療としてのやさしさ」が主流の時代なら、ホンネをぶつけることでうっかり傷つけてしまっても、なんとか修復できるだろうと信じていることができる。

B「「予防としてのやさしさ」が主流の時代では、うっかり相手の気持ちを傷つけてしまったら、関係がぎくしゃくして修復不可能になりかねない。それを防ぐコツは、お互いに相手の気持ちに立ち入らないことだ。

そうした変化の背景には、傷つくことや傷つけることを極度に恐れる心がある。ウケ狙いの発言の応酬を楽しむ分には、ホンネのメッセージが刺さることもないので、傷つくのを防ぐことができる。

C「それはD無難ではあっても、ホンネの交流がないことの淋しさがつきまとう。

つながってはいても、なぜか物足りない

D「ホンネの交流がない淋しさや、つながりに絶えず縛られて気をつかうばかりの鬱陶しさを、だれもがどこかで感じている時代なのではないか。

形の上では繋がっているのに、どうも気持ちが繋がっていない。みんなワイワイするのが楽しいのも事実なのだけど、どこか無理して疲れる。何か物足りない。もつと遠慮なくほんとうに気になることを話せるような相手がほしい。そんな思いを抱えている人が多いはずだ。

学生たちとそのようなことについて話し合ったときも、

「友だちはたくさんいるけど、やっぱり気をつかってるし、無理をしてる自分がいて、正直疲れる。みんなと深くつきあうのは無理だけど、一人でも二人でもいいから気をつかわずにホンネでつきあえる友だちがほしい」

「こんなふうに気をつかうのは4ほんとうの友だちじゃないんじゃないかって思うんですけど、だからといって今の友だち関係を捨てたら孤立しちゃうし、そんなことできないし、悩んじゃいます」などといった意見が出て、多くの若者がそうした意見に賛同する。

上辺だけの繋がりは鬱陶しく感じるものの、「思っていることが違って、気まづくなるのも嫌だし……」「ホンネを出して、変なヤツと思われたらいけないし……」「うっかり自分を出して退かれたら傷つくし……」といった思いも強い。このように、「5見捨てられ不安」に脅かされるため、なかなか率直なつきあいができない。

ホンネの気持ちの交流を求めながらも、一歩踏み出す勇気がない。ただ群れることの虚しさと孤立する恐怖の板挟み状態にあるわけだ。

(榎本博明『「対人不安」って何だろう? 友だちづきあいに疲れる心理』より)

問一 二重傍線部A「キタイ」、B「イゼン」をそれぞれ漢字に直し、C「保(つ)」、D「無難」の読み方をそれぞれひらがなで記しなさい。

問二 空欄A「」D「」に入る語として適切なものを次の中からそれぞれ記号で答えなさい。(同じ記号を二度以上使ってはいけない)

A このように イ そこで ウ ところが エ ただし

問三 傍線部1「さしさわりのない」とほぼ同じ意味を表す言葉を次の中から記号で答えなさい。

A 思うに任せない イ 縁もゆかりもない ウ あたりさわりのない
エ 愚にもつかない オ 味も素っ気もない

問四 傍線部2「友だち集団の会話がバラエティ番組化している」と筆者が感じたのは、学生たちのどのような言動に接したからか。「……から」に続くように文中より十五字で取り出し、初めと終わりの五字で答えなさい。(句読点や「」等も字数に含むものとする)

問五 傍線部3『治療としてのやさしさ』から『予防としてのやさしさ』への変化』について。

① 後のア～カを

- (a) 「治療としてのやさしさ」に当てはまるもの
(b) 「予防としてのやさしさ」に当てはまるもの
(c) (a)・(b)どちらにも当てはまるもの

の三つに分類し、それぞれ記号で答えなさい。

ア お互いのココロの傷を舐めあうやさしさ

イ 新しいやさしさ

ウ お互いの関係を滑らかにするやさしさ

エ お互いを傷つけないやさしさ

オ 旧来のやさしさ

カ 相手の気持ちに立ち入らないやさしさ

② この「変化」の原因は何か。文中より二十字で取り出し、初めと終わりの五字で答えなさい。(句読点や「」等も字数に含むものとする)

問六 空欄 X に入る語として最適なものを次の中から記号で答えなさい。

ア 共感 イ 遠慮 ウ 客観視 エ 納得 オ 論評

問七 傍線部4「ほんとうの友だち」とは、どのような「友だち」か。文中より十九字で取り出し、初めと終わりの五字で答えなさい。(句読点や「」等も字数に含むものとする)

問八 傍線部5「見捨てられ不安」とあるが、ここで述べられている「見捨てられ」ということとは、ほぼ同じ意味で使われている語を次の中から記号で答えなさい。

ア 板挟み イ 遠慮 ウ 孤立 エ 変化 オ 淋しさ

問九 本文中で筆者が述べている内容として正しいものを次の中から記号で答えなさい。

ア 自分のホンネを出した結果、傷つくことが重なった若者は、ホンネの交流をすることをもはや完全にあきらめている。

イ 自分を出すことに不安を感じている若者は、相手の気持ちを詮索しないことで関係を保ちつつ、その一方で物足りなさも感じている。

ウ 傷つくことや傷つけることを極度に恐れる若者の態度は、もっと自分を評価して欲しいという気持ちの表れと言える。

エ 最近の若者たちは深く語り合うことをしないが、それは彼らが物事を真剣に考えていないからにほかならない。

オ 上辺だけの繋がりには鬱陶しく感じるし、かといってホンネのつき合いをする勇氣もない若者た

ちは、どちらかを選ぶ決意が必要だ。

二 次の文章を読み後の問いに答えなさい。

ガムを噛みつづけてミオは歩いていった。噛むのをやめたらきつと泣いてしまうから。ガムを奥歯で

A 噛んで涙を押さえこんでいた。

ミオは全員の住所を教えた。クラスの連絡網を電話の男に読み上げたのだ。

そのすぐあとに、ママから電話があった。

男のことをつたえ、住所を教えてしまったことをママに告げた。

「ママ、あたし言っちゃったの。どうしよう。ぜったい教えちゃいけないって先生に言われてたのに」

ママはだいじようぶ、心配いらなと言ってくれた。

「それより、ミオはだいじようぶ？ こわかったでしょ」

「うん。こわかった」

1 ミオの顔を見ながら話していたら、そのあとのママはちがっていたはずだ。

「でも、これはミオにはいい勉強だったかもね」

I

「世の中はね、ミオだけをいつもAママしてくれるようにはできてないのよ」

II

「だからママが言ってたじゃない、こわい人はいっぱいいるって。自分が悪くなくたって、悪いことはおこるし、悪い人にも出会うのよ」

III

「わかったでしょ。ママの言っていることがほんとうだって。これでよくわかったでしょ」

2 悪い人と思いきこと。これからミオが出会うのは、それだけのよう気がした。

ミオは、ママが集金袋にお金を入れ忘れたことについてのB文句を言い、今からノートを買いに行くといって電話を切った。そしてママの似顔絵の上にツノと鼻クソを書き足した。

傘をもって家を出たとたんに雨は上がった。おんぼろの車はミオをねらって排気ガスをふきかけ、太った園児はミオを見るなり水たまりにC着地してどろ水をあびせた。

バスからおりた人の群れが歩道の正面からぶつかってきた。そこまでする？ 人々にこづきまわされながら、ミオにはわかった。

世の中は寄つてたかつて自分ひとりにいじわるをしかけてきている。なぜかは知らないけれど、運命の女神はミオをにくみ、ろくでもない人々をけしかけてはひどい目にあわせたがっているのだ。

【※】

目の前を、自転車をはいた人が横切った。そのとき後ろの荷台にのせてあった傘がB落ちるのが見えた。小さなおりたたみ傘だった。

自転車のおにいさんはそれには気づかず、行きすぎようとしている。ミオは思わずひろい上げ、あと

を追った。

「すいません」

ミオは後ろすがたに声をかけた。でもおにさんはふりかえらない。

「すいません」

もう一度大きな声を出した。道を行く人たちは何ごとかとミオにD「チュウモク」するのには、肝心のその人だけがふりかえらない。聞こえないはずがなかった。わざと無視しているとか考えられなかった。ミオは心を決めた。世界がどんな悪意をもつていようとかわまない。その手にはのらない。クールでいく。

追いかけていって腕をつつき、どなるように言った。

「カサ、落しましたっ」

おにさんはやつとふり向いた。神経質そうな目が前髪のあいだからのぞいた。背が高かったので見おろされたかっこうになった。

ミオはならみつけて向き合い、それからXでも渡すようにおにさんの手に傘を押しつけ、クルリと背中を向けた。

肩をそびやかしてミオは進んだ。ひざこぞうの傷がピリピリと痛んだけれど、C「天またで歩いた。あたしはまけない。ぜったい泣かない。」

だれかに肩をつつかれた。

ふり向くと傘を渡したおにさんだった。おにさんはミオに向かってしきりに手ぶりをして見せた。それでやつと事情がのみこめた。その人は耳がよく聞こえないのだ。だからミオの呼びかける声もわからなかったのだ。

おにさんはミオの手をD「とった。そして手相でも見るように手の平を上に向けた。そこにおにさんは指でなぞって字を書いた。ゆつくりと書いた。くすぐったかったけれどがまんした。とてもかんたんな字だったから、すぐに読みとれた。」

ありがとう

ミオは顔を上げた。

どんよりとした雨雲が切れ、太陽は西の空にかがやいた。風はやみ、みかん色の陽がおだやかに町を照らした。とり残された水滴があちらこちらで光を散らした。

こういうことであるんだな。小さなことで奇跡のように世界が変わること。ほほえもうとしたミオはどうしたわけかうまいかず、反対にペソをかいてしまった。

おにさんはミオの顔をのぞきこみ、こまった顔で首をかしげた。それからミオの手を自分の両手でつつみこみ、あやすように上下にふった。

ヒトってすごいよね、キズをおおてくれるものがちゃんとあらわれるんだから。だから、

Y「はがしちゃダメ。」

保健室の先生はどうしてわかったんだろう。

あした学校でみなみにあやまろう。集金袋は自分でしたしかめよう。ヒナコをぶつのは先にのぼそう。

ミオはペコリと頭を下げた。おにさんはほっとしたようにほほえんだ。ミオは歩き出した。

今日はラッキーデー。天使があなたの味方です。

星占いを思い出して、しばらく歩いたところでおにさんをふりかえった。3「背中を見ると、服が少しだけもり上がっているような気がした。ちょうどたたんだ羽ぐらいの厚さに。」

(安東みきえ『天のシーソー』『ラッキーデー』より)

問一 二重傍線部A「マモ(つて)」、D「チュウモク」、をそれぞれ漢字に直し、B「文句」、C「着地」の読み方をそれぞれひらがなで記しなさい。

問二 空欄A「S」Dに入る語として適切なものを次の中からそれぞれ記号で答えなさい。(同じ記号を二度以上使ってはいけない)

A ポロリと イ ぐしぐしと ウ そつと エ ずんずんと

問三 傍線部1「ミオの顔を見ながら話していたら、そのあとのママはちがっていたはずだ」とあるが、どのように「ちがっていた」とミオは考えているのだろうか。適切なものを次の中から記号で答えなさい。

A 電話より感情的になり、話の前に手が出ていたはずだ。
イ 電話とちがって、心配のあまり泣き出してはいたはずだ。
ウ 電話で話すより、もっと優しく対応してくれたはずだ。
エ 電話とちがって、もっと手短かに話を終えていたはずだ。
オ 電話で話すより、もっと早口で話し続けていたはずだ。

問四 次の①②③の会話文は、それぞれ空欄I「S」III「III」のどこに入るか。適切な組み合わせを次の中から記号で答えなさい。

【語群】

① それにママはしつこいばかり屋だった。
② 電話のママはいつの間にか説教屋になっていた。
③ どうとうママはクソババアになりはてた。

【選択肢】

ア	I	①	II	②	III	③
イ	I	③	II	②	III	①
ウ	I	②	II	③	III	①
エ	I	③	II	①	III	②
オ	I	②	II	①	III	③

問五 傍線部2「悪い人と悪いできごと。これからミオが会おうのは、それだけのような気がした」とあるが、ミオがそう推測したことが実際に起こっている。その内容を記した、連続した三文を文中

より取り出し、初めと終わりの五字で答えなさい。(句読点や「」等も字数に含むものとする)

問六 空欄 X に入れる語として適切なものを次の中から記号で答えなさい。

ア 遺言状 イ 絶交状 ウ 紹介状 エ 感謝状 オ 果たし状

問七 文中には、あることをきっかけとしてミオの気持ちが大きく変化したことを、自然現象を描くことによって明らかにしている段落がある。【※】以降にあるその段落を取り出し、初めと終わりの五字で答えなさい。(句読点や「」等も字数に含むものとする)

問八 空欄 Y の中に、ふさわしいひらがな(カタカナでもよい)四字の語を考えて入れなさい。

問九 傍線部 3 「背中を見ると、服が少しだけもり上がっているような気がした」とあるが、このような表現には、ミオが「おにいさん」をどのような存在と見立てたからと考えられるか。文中より漢字二字で答えなさい。

問十 本文の内容説明としてふさわしいものを次の中から記号で答えなさい。

ア 反抗期真つただ中のミオは、何に対してもすべて気に食わないものとしてとらえ、そのイライラを母親や世間にぶつけている。

イ この作品は、母親の失敗や、友だちとの仲たがい、自分の失敗など、すべてがうまくいかないと感じているミオの、ある日のできごとを描いている。

ウ ミオは、自分の考え方が間違っていることをおにいさんから優しく教えられたことで、ようやく納得することができた。

エ 消極的で何事にも後ろ向きな性格のミオは、おにいさんと自分を比較することにより、恵まれた自分に気づき、前向きになっていく。

オ おにいさんからも無視されてしまったミオだが、それをきっかけとして自分と他人との違いを理解し、今までの努力不足に気づいた。

解答用紙へ国語

受験番号

氏 名

総合得点

一

問九	問八	問七	問六	問五		問四	問三	問二	問一
				②	①			A	A
					(a)				
								B	
									B
								C	
					(b)	§		D	C
					§				(3)
									D
					(c)				
						から。			

一 合計

二

問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
								A	A
								B	(つて)
									B
								C	
								D	C
									D

二 合計